



愛院大生と厚労省職員 公的年金テーマに討論

公的年金制度をテーマに愛知学院大の学生と厚生労働省の職員が意見交換する集いが八日、名古屋市北区の同大名城公園キャンパスであった。写真。公的年金のうち若い世代で未納が目立つ国民年金の保険料について、学生側からは「負担

が重い」との切実な声がかかる場面もあった。

厚労省が「学生との年金対話集会」と題して要望のあった各地の大学などで二〇一九年から開いており、愛知学院大では初めて。経済学部の玉井金五客員教授（社会政策）のゼミで学ぶ四年生十八人と年金局の職員五人が参加した。

オンライン参加の古川弘剛（こうたけ）年金広報企画室長が現行の年金制度の仕組みなどを説明した後、二つのグループに分かれて意見を交わした。男子学生の一人が「学生には授業料もあり、国民年金は負担が重いと思って

いる」と述べると、職員は「経済的な事情で納付が困難な場合は免除・猶予制度があるのを利用してほしい」と助言した。

学生は「年金制度について職員の方ができた」と喜んで聞いて、改めて理解を深めることになった。（小松原康平）